

## VI 生涯学習課

### 1 庶務係

蟹江町社会教育委員名簿

職 名	氏 名
委 員 長	吉 田 正 昭
副 委 員 長	古 市 雅 英
委 員	佐 藤 良 樹
委 員	今 井 雅 良
委 員	伊 藤 辰 男
委 員	山 田 久 子
委 員	岸 幸 雄
委 員	飯 田 數 義
委 員	伊 藤 清 敏
委 員	加 藤 俊 男
委 員	戸ヶ崎 淳

(敬称略)

#### (1) 社会教育委員の活動状況

##### ① 社会教育委員会議の開催状況

##### ア 社会教育委員会議の構成

##### (ア) 会議の種類

定例会（年2回開催5月・11月）

##### (イ) 構成員

社会教育委員、教育長、教育部長、生涯学習課長、歴史民俗資料館副館長、生涯学習課長補佐、図書館副館長、生涯学習課係長

##### ② 会議の運営状況

平成25年度における蟹江町社会教育委員の定例会の主な活動状況は次のとおりである。

開催日	議案・報告事項等
成25年 5月31日 (定例会)	<b>【協議事項】</b> 1 平成24年度事業報告について ア 生涯学習課関係事業報告について イ 蟹江町図書館事業報告について

開催日	議案・報告事項等
平成 25 年 5 月 31 日 (定例会)	2 平成 25 年度事業計画について ア 生涯学習課関係事業計画について イ 蟹江町図書館事業計画について
平成 25 年 11 月 8 日 (定例会)	【協議事項】 1 蟹江町社会教育委員の経過報告について 2 平成 25 年度事業経過報告について ア 生涯学習課関係事業報告について イ 蟹江町図書館事業報告について 3 平成 26 年度事業計画(案)について ア 生涯学習課関係事業計画について イ 蟹江町図書館事業計画について

## 2 生涯学習係

### (1) 公民館事業

講座・各種教室の開催

(平成 25 年度実績)

#### ① 公民館講座

講座・教室名	中央公民館		
	開催数	募集人員	参加数
お茶の心教室	4 回	15 人	申込少数 の為中止
カラーコーディネート講座	5 回	20 人	14 人
水彩画教室	5 回	20 人	22 人
紅茶とハーブの癒しカフェ	3 回	20 人	11 人

#### ② 公民館自主グループの支援

公民館講座の修了者が、結成した自主グループに対し、施設利用料の一部を減額することで、団体活動を支援し、公民館活動を促進する。

#### [点検・評価]

中央公民館・分館では、生涯学習・文化活動の拠点として、学習や交流の場を提供するため、各種講座を開設している。また、参加者に対するアンケート調査を実施し、今後も町民のニーズに応えられるような講座を開設していくことに努めていく。

## (2) 家庭教育・人権教育

### ① 家庭教育講座

講座・教室名	開催数	募集人員	参加数	開催場所
わくわく子育て教室	5回	25家族 50人	23家族 46人	蟹江中央公民館
親と子の料理教室	1回	15組 30人	15組 30人	蟹江中央公民館
カブトムシを育てよう	1回	60人	21家族 45人	蟹江中央公民館
オオクワガタを育てよう	1回	60人	48家族 81人	蟹江中央公民館
ちょこっと探検隊	1回	20組 40人	9組 21名	三重県 伊賀の里 モクモクファーム
親子キャンプ教室	1回	50人	12家族 36人	三重県民の森 朝明キャンプ場

#### 〔点検・評価〕

わくわく子育て教室については、昨年よりも受講者が増加した。その背景にリトミックを取り入れたことが好評であった。年齢層が広いと参加者・講師に負担が多くなり調整が必要と思われる。子育てネットワーカーのサポート活動もあり、依然として子育てに関する関心が高いことが確認できた。

カブトムシ・オオクワガタを育てようは、親子でカブトムシ・オオクワガタを幼虫から成虫になるまで、観察しながら育て、親子の絆を強めることを目的とした講座で、予想を上回る参加があるが、カブトムシが昨年より参加者数が減少してきたため検討したい。

親子キャンプ教室については、24年度宇賀溪キャンプ場、25年度は朝明キャンプ場で事業を行った。参加申し込み者が少なく、次年度以降の事業は行き先の検討を要する。

## (3) 青少年健全育成

### ① 青少年健全育成講座

講座・教室名	開催数	募集人員	参加数	開催場所
子ども料理教室	2回	各24人	11人 9人	蟹江中央公民館
バルーン教室	1回	20人	17人	蟹江中央公民館

② 成人式

「はたち」を迎える新成人が、明るい未来の担い手としての自覚を持ち、社会人としての責任ある行動をとることを願い、地域社会全体で祝い励ます。  
(開催日：平成26年1月12日(日) 対象者：422人 参加者：342人)

③ 青少年相談事業

青少年問題協議会専門委員による相談事業を毎月1回、中央公民館分館にて実施している。

④ 青少年健全育成運動

青少年の非行防止のため、指導者研修会や街頭指導を年2回実施している。

[点検・評価]

講座での参加応募は、どちらも定員に達していないことから、今後とも町民のニーズに応じているか検討を要する。

成人式は、町外へ転出している方も出席できるよう、窓口を広げていることもあり、出席率もよい。また、女性からは午後の開催ということが、着付けに早朝から行かなくてもよいことが好評である。

(4) 生涯学習関係団体育成

① 蟹江町文化協会

文化協会の円滑な運営及び芸術文化活動の充実に資するため、補助金を交付し指導・育成する。

9部門 44団体 692人 補助金1,142,200円

② 蟹江町婦人会

婦人の地位向上や心豊かな地域社会の発展に寄与することを目的に、婦人会に対し補助金を交付し支援する。

9支部 14,600世帯 補助金1,180,000円

③ 蟹江町小中学校PTA交付金

学校と連携を密に、教育の充実と地域社会の発展・振興に寄与するPTA活動に対し、交付金を交付し支援する。

7小中学校 3,000人 交付金1,343,780円

[点検・評価]

町民が健全で豊かな生活を営むために、社会教育関係団体に対して補助金(交付金)を交付することにより、町民の健康と地域文化の向上並びに町民相互の親睦を図ることができる。

(5) 生涯学習まちづくりの推進

① 生涯学習まちづくり推進町民大会の開催

青少年健全育成・家庭教育推進・生涯学習の推進を促す町民大会として開催した。

- ・ 開催日 平成 25 年 7 月 7 日(日) 開催場所 蟹江中央公民館集会室
- ・ 講師 渡辺陽一氏  
演題 家族の絆～切り 100 カ国以上の家族と過ごした時間  
入場者 702 人

## ② 文化祭の開催

町内における文化振興を図り、各種文化団体（または個人）の親睦と連携を深め、併せて生涯学習まちづくりを推進する。

- ・ 開催日 平成 25 年 11 月 2 日(土)・3 日(日)  
展示の部 2,025 人  
芸能の部 30 団体 526 人
- ・ 開催場所 蟹江中央公民館・蟹江町体育館

## ③ 創年式の開催

60 歳を迎えた方が集い、人生の節目を共に喜び合い、地域への連帯感を確認しながら人生の再出発を祝う。

- ・ 開催日 平成 25 年 10 月 27 日(日) 対象者：421 人 参加者：53 人
- ・ 内容 式典、各種相談コーナー  
(健康相談・ボランティア・生涯学習啓発)
- ・ 講演会 森岡 稔氏「明日があるさ」

### [点検・評価]

生涯学習まちづくり推進町民大会は、知名度が高く集客力のある講師により、参加者を多く迎えることができた。日曜日に開催日を変更した第三年目にあたり知名度があり、集客力のある講師選定が必要不可欠である。

また、今年で 6 回目の創年式を開催した。対象者から見ると出席率が平成 20 年度が 31%、平成 21 年度が 21%、平成 22 年度は 27%、平成 23 年度は 16%、平成 24 年度は 10%、平成 25 年度 8%と低いのが課題であり、そこで対象者と協働して企画するなどして、創意・工夫し、出席したい内容にしていけることが必要である。

## 3 歴史民俗係

### (1) 歴史民俗資料館利用状況

開館日数及び入館者数(内講座利用者)

- ① 開館日数 303 日
- ② 入館者数 12,253 人(306 人)
- ③ 1 日当たり 40.4 人

[点検・評価]

平成 25 年度は、入館者数が 24 年度に比べて若干増加した。内訳としては、JR さわやかウォーキングや近鉄ハイキングのコースとして立ち寄り、見学された方が特に多かった。こうした機会に見学いただいた方々の中には、改めて家族や友人と来館される方もあった。

今後も観光協会、ガイドボランティア等の団体とのタイアップにより来館者を誘致するほか、「もう一度訪れてみよう」「友人・知人にも勧めよう」と思ってもらえるような内容の展示を行い、多くの方に足を運んでいただけるようにしていく努力が必要である。

(2) 収集・保管

① 収蔵資料点数 4,078 点

② 郷土文化資料購入

館蔵資料の充実のため、郷土の文化人や町の歴史に関する資料等を購入した。

宇佐美江中（画家）掛軸 2 点

蟹江家古文書 一式

③ 資料の寄贈

町内外の方から関連資料 25 点の寄贈を受けた。

④ 資料の寄託

蟹江家（旧鈴木家）より武具と古文書の寄託をうけた。

武具については、既に寄託されている甲冑について、蟹江家が修理事業を行ったことをうけ、甲冑とともに企画展として公開した。

[点検・評価]

平成 25 年度においては、収蔵資料としては大きな動きはなかったが、蟹江家から資料の寄託を新たにうけた。

資料の寄贈・寄託については、持ち主の方から資料館の役割についての理解と信頼をいただいてこそのことである。期待に沿えるような活動を行っていかなくてはならない。

一方、資料の数は年々増加し、既存施設では収容力不足となりつつあり、新たな収蔵施設の充実を図る必要があると思われる。また、収蔵資料情報や、周辺の画像資料などもデジタルデータとして保管していく必要があり、資料保存のための周辺機器や設備を整備する必要がある。

(3) 展示

① 常設展示の充実

年間を通じて、テーマを設定し、郷土の歴史、民俗にかかる資料の展示を行い、さらに購入した郷土文化資料や新たな寄贈資料を加えるなどし、常設展示の充実を図った。

② 企画・特別展示

○ 町の歴史・民俗関連の企画展・特別展を実施した。

ア 特別展

- ・ 「海部津島の学校生活」  
展示場所 企画展示室  
展示期間 平成 25 年 10 月 19 日～11 月 24 日 来館者数 1,326 人
- ・ 「郷土のひな人形」  
展示場所 企画展示室  
展示期間 平成 26 年 2 月 22 日～3 月 23 日 来館者数 1,211 人

イ 企画展

- ・ 「須成祭パネル展」  
展示場所 ロビー展示  
展示期間 平成 25 年 7 月 25 日～8 月 18 日
- ・ 「エコきつず調査隊成果発表展」  
展示場所 ロビー展示  
展示期間 平成 25 年 8 月 20 日～9 月 8 日
- ・ 「蟹江家伝来武具特別公開展示」  
展示場所 第二展示室  
展示期間 平成 25 年 11 月 30 日～12 月 28 日
- ・ 「電化製品のうつりかわり」  
展示場所 第二展示室  
展示期間 平成 26 年 1 月 18 日～3 月 2 日

〔点検・評価〕

展示活動は、資料館が資料収集した資料等を調査研究したうえで公開するもので、資料から一目で学習情報を読み取り理解できるという学習効果が望めるという資料館の重要な事業の一つである。

平成 25 年度の特別展においては、大正 2 年に海部郡が誕生してから 100 年にあたることから 10 月に、海部津島の関係機関と連携をとりテーマを設定して開催した。町内外からも関心を集め、連携他館を巡回しながら見学された方も多かった。

来館者の満足度の高い内容のテーマ設定・内容の展示をいかに行っていくかということとともに、近隣他館との連携も一つの要素として重要になるだろう。

(4) 調査・研究

①資料館関連資料についての調査・研究

展示内容の充実を図るために、関連資料等の調査・研究を行った。

②その他調査

愛知県史編纂等に伴う調査への協力等を、依頼に応じて随時行った。

〔点検・評価〕

調査・研究した資料を展示し、教育普及・情報提供活動に供する点で、調査・研究活動は資料館運営の根幹事業である。これからも調査・研究事業を円滑に進めていくためには、関係各位の協力が不可欠であり、地域との連携が重要になってくるであろう。

(5) 情報提供

① 各種印刷物等の発行

歴史民俗資料館年報第34冊出版

歴史民俗資料館パンフレット刷新

② 関連機関発行の印刷物等への情報提供

新聞社、出版社、放送局などの機関に対し、町の歴史や民俗に関する情報提供を、依頼に応じて随時おこなった。

〔点検・評価〕

歴史民俗資料館年報34冊については、教育委員会及び県立図書館などに寄贈したほか、既刊の印刷物とともに窓口で有料配布を行い、資料を持ち帰って学習したいという来館者のニーズに対応している。また、近年、報道機関等からの情報提供の依頼も増加しており、速やかに対応できるよう、データベースを整備しておくことも重要になってきている。

(6) 教育普及

① 主催講座

講座・教室名	中央公民館分館ほか		
	開催数	募集人員	参加数
古文書を読む会	8回	30人	13人
歴史文化夢案内人 (ガイドボランティア) 第10期養成講座	10回	15人	5人
環境学習 エコきつず調査隊	5回	20人	20人
郷土体験学習会	4回	25人	13人
地域文化財講座	1回	60人	20人
文化財研修会	1回	100人	31人

② 出前授業

小中学校に呼びかけ、資料館学芸員が学校に出向いて蟹江町の歴史や文化に



についての解説をした。

開催日	学校名	内容
平成 25 年 5 月 17 日	新蟹江小学校	蟹江の祭りについて
平成 25 年 5 月 7 日	新蟹江小学校	蟹江の郷土食について
平成 25 年 5 月 28 日	新蟹江小学校	盛んだった漁業について
平成 25 年 10 月 30 日	舟入小学校	盛んだった漁業について
平成 25 年 12 月 4 日	蟹江小学校	新田開発と地名について

〔点検・評価〕

地域の歴史や民俗に関する各種講座を開催した。また、受講後に学んだことをどのように地域活動に活かすことができるか、ということ考虑したボランティア養成講座も実施した。また、平成 25 年度は新たに、出前授業を実施するとして、積極的に小中学校への呼びかけを行った。

ボランティア養成講座については、10 回期生を区切りとし、最終年度として開催した。今後は、ガイドボランティアによる自主養成となるが、情報提供や参考にできる内容の講座を行うなど、フォローを続けていくことが大切になってくるだろう。

出前授業では、いままであった潜在的なニーズに応えることができた。今後も子どもたちの郷土学習への関心を高めることができるよう継続して実施していきたい。

#### 4 文化財保護係

##### (1) 文化財保護等補助事業

町内文化財保護団体に対し、文化財保護にかかる経費の補助を行い、歴史・文化の形成を正しく理解する上での基礎資料である文化財を、過去から未来に保存・伝承し、活用を図る等、人的・物的支援を実施した。

事業数：県指定無形民俗文化財伝承活動事業始め 5 事業

補助団体件数：須成文化財保護委員会始め 21 件 町費補助額 2,942,000 円

##### (2) 文化財資料出展公開事業

10 月の町民まつりに併せて、各町内会に協力を依頼し、町内に存する神楽屋形や祭囃子等をまつり会場にて出展公開した。

公開期日 平成 25 年 10 月 13 日(日)

協力町内会 須成、蟹江新町、今、源氏才勝、西大海用、本町分、舟入

##### (3) 重要文化財公開事業

国指定重要文化財である龍照院の十一面観音立像と富吉建速神社・八劔社本殿の公開を毎月 18 日に行ったほか、事前申し込みにより随時公開を行った。

#### (4) 須成祭解説パネル作成

重要無形民俗文化財に指定された須成祭について、祭りの普及・啓発をはかるため、写真を掲載した解説パネルを10枚作成した。

##### [点検・評価]

平成24年に国の重要無形民俗文化財に指定された須成祭については、前年度に引き続き、補助金の交付や須成祭解説パネルを作成し企画展を行ったほか、教育普及活動においても須成祭体験学習をするなど、保護とともに普及・啓発活動を行った。今後も積極的に保護事業とともに普及・啓発活動を行っていく必要がある。

補助事業については、指定文化財だけでなく、郷土芸能伝承団体とも密に連絡をとりながら行い、適正な補助金交付に努めるとともに団体の活動を見守っていくことが重要である。

文化財公開に際して歴史文化ボランティアの人材を活用することにより文化財に対する理解などを深める効果があり、多くの層の方に来場いただいた。

### 5 生涯スポーツ係

#### (1) スポーツ事業

##### ① 各種スポーツ教室

町民が日常生活の中にスポーツを取り入れ、楽しみながら体力向上と健康増進を図ることを目的として開催した。

講座・教室名	開催数	募集人員	参加数	開催場所
ヨガ教室	5回	50人	55人	蟹江町体育館
ノルディックウォーキング教室	2回	60人	28人	日光川ウォーターパーク周辺 須成地区周辺

##### [点検・評価]

講座・教室の参加応募は、ヨガ教室については55名で昨年の43名から若干増加した。ノルディックウォーキング教室は、2年目の開設講座であるが、まだ一般には馴染みの薄いスポーツであるため参加者数が思いの外少なく、今後急速に普及する可能性も有り、次年度以降も開催を予定している。今後、時期・時間帯等を検討し、住民ニーズの把握に努め、参加者が参加しやすい講座・教室を開催していく。

#### (2) スポーツ推進委員・地区スポーツ協力員

町民がスポーツ及びレクリエーション活動をすることにより、体力の維持・向上を目指しスポーツ推進委員、地区スポーツ協力員を教育委員会が委嘱する。

##### ① スポーツ推進委員

- 平成25年度 18人

- ② 地区スポーツ協力員
  - ・ 平成 25 年度委嘱 42 人
- ③ 各種講習会
  - ・ 指導者研修会
 

ニュースポーツフェスティバル開催に向け、スポーツ推進委員及び地区スポーツ協力員に対し、指導・普及を目的として講習会を開催した。

【種目】体力テスト、ドッジボール、キャッチング・ザ・スティック、キンボール、ネットパスラリー、カローリング
  - ・ スポーツ推進委員各種研修会
 

太極柔力球

〔点検・評価〕

スポーツ推進委員が、各種研修会へ積極的に参加しスポーツ推進委員の資質向上を目指す。また、地域社会の活性化と住民の豊かな心と健康を図るため、生涯スポーツを推進し、その手段の一つとしてニュースポーツを通じて、町民の運動への関心を高めることが重要であり、スポーツ推進委員を中心として、地区スポーツ協力員と連携し各種教室・大会を開催した。

(3) スポーツ団体の指導・育成

① 生き生きかにえスポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブとして平成 22 年 3 月 14 日に設立。

・ 役員 理事 9 人 監事 1 人

会員数 566 人

講座数 常時 19 講座 短期 5 講座

イベント 2 回 (バスハイキング(豊田市小原地区、伊勢神宮等散策))

・ 交付金等 交付金 3,000,000 円

② 蟹江町体育協会

体育、スポーツの振興と普及を図り、町民の体力向上を資すると共に、健康で明るい社会の建設を目的とする協会の活動に対し、指導・育成する。

16 団体 1,206 人 補助金 2,407,200 円

③ 蟹江町スポーツ少年団

青少年がスポーツを通じて心身を鍛錬し、青少年の健全育成に資することを目的とした団の活動に対し、指導・育成する。

18 単位団 団員 475 人 指導者 126 人 補助金 748,050 円

〔点検・評価〕

スポーツ関係者の理解・協力を得て、設立準備委員会、運営委員会を重ねた結果、海部地区で2番目となる総合型地域スポーツクラブ「生き生きかにえスポーツクラブ」が設立され、4年目となった。前年度と比較すると、収支・継続会員数共に増加し、順調に運営されている。

体育協会・スポーツ少年団は自主運営がなされているが、会員・団員の増員を図ることや、庶務等に関し生涯学習課からの事務移譲が課題である。

(4) 各種協議会・大会の開催

① 第9回ニュースポーツフェスティバル(民生部 健康推進課 共催事業)

気軽に楽しめるニュースポーツを通して、明るい町民生活に寄与することを目的として開催する。また、体力テストの実施により健康維持増進に役立つ。

- ・ 実施日 平成25年9月1日(日) 参加者数/166人
- ・ 開催場所 蟹江町体育館

② 第33回 蟹江町みんなで走ろう会

みんなで走ることにより、体力づくりと家族のふれあいや友達との親睦を深めることを目的として開催する。日光川ウォーターパークを発着点として、3km及びジョギングの2部門を実施した。

- ・ 実施日 平成25年12月15日(日) 参加者数/417人
- ・ 開催場所 日光川ウォーターパーク周辺

③ 第34回 蟹江町駅伝大会

チームで走ることにより、相互親睦と協調性を高め、地域住民のスポーツの振興を図ることを目的として開催する。新蟹江小学校を中継点に、5人1組で、17.3km及び12.3kmの部門と、今年度から小学生の部の変更により、ウォーターパークと新蟹江小学校を中継地点とした6人1組で9kmの部門が新たに創設され実施した。

- ・ 実施日 平成26年1月26日(日) 参加チーム/134チーム
- ・ 開催場所 新蟹江小学校周辺

④ みんなで歩こう会(年2回開催)

みんなで歩くことにより、体力づくりと家族のふれあいや友達との親睦を深める。また、ウォーキングの習慣を身に付けることで健康増進を図ることを目的として開催した。

- ・ 実施日 平成25年6月2日(日) 場所 三重県熊野古道 参加者 80人
- ・ 実施日 平成25年11月10日(日) 場所 奈良県山の辺の道 参加者 36人

⑤ 愛知万博メモリアル第8回愛知県市町村対抗駅伝競走大会

2005年「愛知万博」を次世代へ語り継ぐと同時に、愛知県内の市町村の交流、市町村合併後の一体化促進、県民意識の高揚、県民スポーツの振興を目的として開催され、参加した。

- ・ 実施日 平成25年12月7日(土) 開催場所 愛・地球博記念公園
- ・ 内容 小学生の部から40歳以上の部まで男女9名による継走
- ・ 出場者 一般公募により選手選考を経て選手決定
- ・ 成績 町村の部 16 町村中 11 位

〔点検・評価〕

昨今の健康志向により、豊かな自然や町並み散策を兼ねたジョギング、ウォーキングなどへの参加者は年々多くなってきている。毎年、秋の参加者が少ない点が課題となっている。小学生の部の変更があった蟹江町駅伝大会は、変更点に伴った多くの課題が残ってしまったので、再検討していきたい。ニュースポーツフェスティバルは、もう少し参加者が多くなるよう内容を再検討し、より多くの住民が参加したいと思うイベントにしていきたい。

(5) その他

① スポーツ表彰

蟹江町在住・在勤の者が、全国規模のスポーツ大会に蟹江町及び愛知県の代表選手として出場した場合、栄誉を称えるため蟹江町功労者表彰により表彰した。 表彰者／ 9人

② 全国大会等出場選手奨励金支給

アマチュアスポーツ競技の全国大会等に選手として出場する個人または団体の小・中学生に対し、奨励金を支給する。 該当者／ 3人

③ スポーツカレンダーの発行

- ・ 町及び町体育協会等の実施する、年間スポーツ行事を掲載したカレンダーを全戸配布することで、町民に事業参加を促し、スポーツ振興・健康づくりの推進に寄与する。
- ・ 年1回 4月発行 1,000部

〔点検・評価〕

全国規模の各種スポーツ大会へ出場することを、表彰されたり、奨励金を支給されたりすることにより今後のスポーツ活動の糧となり励みとなっている。

6 女性対策係

(1) 女性対策

女性教育研修会

蟹江町婦人会代表者研修

- ・ 社会教育活動を推進するため、地域活動の担い手に対して社会教育活動を企画実施するうえで必要な知識や技術の習得と、市町村を超えた情報交換の機会を設け、地域及び県域で活躍でき、社会教育を担っていく指導者としての資質向上を図ることに役立てる。

[点検・評価]

国・県主催による女性の地位向上に向けた研修事業等に参加し、男女共同参画に関わる学習事業を企画する必要がある。女性教育活動推進のため、民間の女性教育指導者に対し、女性教育指導者としての資質向上を図る研修事業等に参加を求めていく。

## 7 施設係

### (1) 生涯学習施設、設備及び備品の整備

① 中央公民館分館消防用設備及び蟹江町体育館の施設老朽化に伴う改修を実施した。

中央公民館	外壁及び屋上防水改修工事	35,175,000 円
	同設計管理	1,407,000 円
蟹江町体育館分館	屋根及び外壁改修工事	22,050,000 円
	同設計監理	882,000 円

② 体育館分館内装・照明の施設老朽化に伴う改修計画を策定した。特に、体育館分館を総合型地域スポーツクラブのクラブハウスとして効率的に利用した。

③ 生涯学習施設をPRし、使用方法等を周知し、更に一層の利用促進を図った。

④ 学校体育施設を町民の健康増進及びスポーツ振興を図るため、町内小・中学校の屋外・屋内体育施設を町民に開放した。

[点検・評価]

グラウンド、テニスコートの有料化も定着してきた。総合型地域スポーツクラブが発足し、今までの体育協会等の既存利用者の利用既得権が強いことから、「生き生きかにえスポーツクラブ」の活動場所の確保が困難であったが、体育施設の有効かつ効果的な利用を推進するために、利用頻度の少ない施設の活用及び、連絡調整に努めた。

施設の老朽化にともない、平成 25 年度は蟹江町公民館の外壁及び屋上防水改修工事を実施し、施設の充実を図ったが、中央公民館及び体育館分館を始めとする生涯学習施設の老朽化が進み、施設改修の必要性が増加してきている。今後、改修計画等を立案し、それに従って順次メンテナンスを行っていく必要がある。